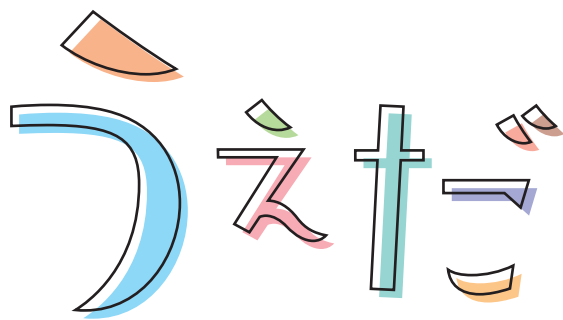




市議会だより

令和5年12月定例会
令和6年2月16日号

No.95

産業環境委員会 上田市の産業を元気にしよう

voice 〳 企業・研究施設の誘致！人材確保が課題 〳〳



市民建設委員会

移住定住

～上田で人生を一緒に楽しもう～

voice 〳 住民が住みやすいまちにするのが大事 〳〳



総務委員会



高校生と語る上田の未来

voice 〳 高校生の居場所となる場所が少ない！ 〳〳

教育厚生委員会

食と健康

～食を通じた健康づくりについて語ろう～

voice 〳 子どもの頃から料理に触れることは心の栄養も育む 〳〳



ご参加ありがとうございました。



テーマ別車座集会

議会トピックス

CONTENTS

○テーマ別車座集会を開催

○行政視察報告

4 常任委員会が先進地視察を実施

読者アンケートに
ご協力ください

詳しくは裏表紙へ



～議員と語ろう～テーマ別車座集会を開催！

報告はP14～P15をご覧ください

常任委員会ごとにテーマを設け開催した車座集会には、総勢71名の皆様にご参加いただきました。活発なご意見・ご提案は、今後の委員会活動に活かしていきます。

目次

令和5年12月定例会概要	2-3
常任委員会審査概要	4-5
12月定例会一般質問	6-13
テーマ別車座集会報告	14-15
常任委員会行政視察報告	16-17
請願・陳情の審査	18
読者アンケート	19



1,461万円へ

会 期 11月27日から12月18日まで（22日間）

議 案 条例案10件、予算案10件、事件決議案10件、合計30件を
全て可決と決定

一般質問 22人の議員が一般質問を実施▶▶▶ 質問要旨はP6から掲載

条例改正

上田市税条例等中一部改正など
全10件

可決

◆上田市税条例等中一部改正

市債権に係る督促手数料の徴収を廃止するため、所要の改正を行うもの。

◆上田市国民健康保険税条例中一部改正

子育て世帯の負担軽減等のため、国民健康保険税の納税義務者又はその世帯に属する被保険者が出産する予定又は出産した場合、その者について算定した所得割額及び均等割額を減額するため、所要の改正を行うもの。

◆上田市重症心身障害児・者施設条例中一部改正

重症心身障がい児・者を対象とした通所の障がい者支援施設である「上田市つむぎの家」の移転に伴い、所在地が変わるため、所要の改正を行うもの。

◆上田市立産婦人科病院事業の設置等に関する条例及び上田市立産婦人科病院料金条例廃止

令和6年3月31日をもって上田市立産婦人科病院事業を廃止するため、当該事業に関する条例2本を廃止するもの。

◆上田市保育所条例中一部改正

在園児数が減少し集団としての保育の実施が困難な状況であることから、令和6年3月31日をもって上田市西内保育園を廃止するため、所要の改正を行うもの。



西内保育園

事件決議

スポーツ都市宣言の制定など全10件

可決

◆スポーツ都市宣言の制定

「生涯スポーツ社会」の実現に向けた取組を一層進めるため、スポーツ都市を宣言するもの

◆上田市立産婦人科病院立体駐車場及び連絡通路の独立行政法人国立病院機構への無償譲渡

◆上田市の特定の事務を取り扱わせる郵便局の指定の取消し

◆指定管理者の指定（3議案、全23施設）

上田市上田古戦場公園、信州国際音楽村公園、上田市農林漁業体験実習館（室賀温泉ささらの湯）、上田市森林センター、上田市つむぎの家、上田市相染閣 他

◆市道路線の認定

他3件

12月定例会 概要

一般会計27億660万円を補正 一般会計総額は780億

議案
補正予算
概要

令和5年度一般会計補正予算 第7号・第8号を審査

可
決



[上田市 HP]



補正予算第7号の事業をピックアップ

常任委員会での審査
概要はP 4-5に掲載

食料支援臨時事業

800 千円

生活困窮者への生活相談と併せて食料支援を実施している団体及びこども食堂を運営する団体が直面している食料費の高騰に対して支援する。

指定管理者支援事業

41,053 千円

原油・原材料価格の高騰に直面する指定管理者に対して、安定した施設運営のために必要な支援を実施する。

障害者福祉施設整備事業

14,066 千円

- ・障がい者の福祉を向上するため、社会福祉法人等が行う障がい者支援施設等の整備に対する補助金の計上。
 - ・上田市つむぎの家移転に向けた施設改修費の計上。
- ※つむぎの家移転に係る令和6年度以降の事業費は、6,099 千円の債務負担行為を設定

スポーツ都市宣言制定記念事業

1,400 千円

スポーツ都市宣言の制定を広く市民に周知するとともに、市民のスポーツへの関心を高めるため記念講演会を開催する。



補正予算第8号の事業をピックアップ

物価高騰に伴う住民税非課税世帯に対する特別給付金事業

1,130,000 千円

食料等の物価高騰等の、様々な困難に直面した方々に対し、生活・暮らしの支援を行うため、住民税非課税世帯に対して特別給付金を給付する。

○対象世帯

世帯全員の令和5年度の住民税均等割が非課税である世帯（住民税均等割が課税されている者の扶養親族等のみで構成される世帯を除く）

○給付額

1 世帯あたり 7 万円



[上田市 HP]

消費喚起応援事業

340,000 千円

消費喚起応援事業第6弾として、スマートフォンアプリを活用した消費喚起キャンペーンを実施する。

○対象店舗 市内の中小企業

○実施期間 令和6年2月1日(木)から2月29日(木)【予定】

※チケット利用額が予算額に達した時点で終了

○発行チケット総額 1 万円（1 IDあたり）



[上田市 HP]

総務委員会

●12月8日に開催し、条例案2件、予算案2件、事件決議案2件、請願1件、陳情2件の審査を行いました。

スポーツ都市宣言の制定

問 スポーツ都市宣言を制定することとで、スポーツ振興に加え、健康の保持増進、地域経済の活性化、文化・観光など、他の分野との連携はどう深めていくか。

答 上田市スポーツ推進審議会での議論に加え、パブリックコメントで寄せられた意見を踏まえ、宣言文には他分野との連携を意識して盛り込んでいる。第二次上田市スポーツ推進計画で掲げる施策を通じて、文化スポーツ観光部内を中心にさらに連携を深めていきたい。

信州国際音楽村ホールこだま等の指定管理者の指定

問 上田市真田温泉健康ランドふれあいさなだ館について、令和3年度に比べ令和4年度の赤字額が増大している原因は何か。

答 令和4年度は原油・原材料価格の高騰により、燃料費及び光熱水費が大幅に増えたことが原因である。



[上田市真田温泉健康ランドふれあいさなだ館]

産業環境委員会

●12月11日に開催し、条例案2件、予算案4件、事件決議案1件、陳情1件の審査を行いました。

一般会計補正予算第8号

問 消費喚起応援事業について、事務経費の内容はどうか。また、金額は妥当なものとなっているか。

答 事務経費は、システム利用料が約1千万円、その他人件費、広告宣伝費、コールセンターの設置に係る費用等を含めた金額となっている。システム利用料及び人件費等の経費については、過去の実績及び実施期間から算出しており、妥当な金額であると考えている。

上田市真田林業就労者住宅条例廃止

問 当該住宅の廃止に伴い、林業の担い手確保のための代替策が必要と考えるがどうか。

答 林業の担い手確保に向けた対策については、令和7年度以降をめどに、森林環境譲与税を活用し、林業従事者の確保・育成、林業事業体への支援について補助事業等を検討していく。



[上田市真田林業就労者住宅]

「常任委員会」では、条例や補正予算、事件決議などの審査を行いました。

本会議での委員長報告ほか



●12月8日に開催し、条例案5件、予算案7件、事件決議案2件の審査を行いました。

上田市重症心身障害児・者施設条例中一部改正

問 上田市つむぎの家の整備について、指定管理者とは、施設移転

以外の方法として、法人主導による施設の建替えなどについても協議を行ったとのことだが、建替えを行わないことになった理由は何が。

答 上田市つむぎの家における障害福祉サービス事業は、専門性の高い医療的ケアを必要とする側面が大きく、専門的人材の配置も含めた十分な支援体制が必要となる。しかしながら、民設の施設においては、十分な支援体制を構築した上で、事業を

継続していくのは難しいことから、法人主導による施設の建替えなどは行わず、令和3年には行政の責務として、医療的ケア児等への支援体制の整備が位置付けられたことも踏まえ、公設の施設として移転することを決めた。

一般会計補正予算第7号

問 産後ケア事業利用者の増加に伴い、委託料の追加計上が行われているが、事業の利用者が増えている理由は何が。

産後うつや出産後の体調不良により助産師の指導等を必要とする方が増えていることによるものである。



教育厚生委員会

●12月11日に開催し、条例案1件、予算案3件、事件決議案5件の審査を行いました。

印鑑登録及び証明に関する条例中一部改正

問 コンビニエンスストア等での証明書の交付状況はどうか。また、今回の改正により、スマートフォンを使ってどのような証明書が交付できるようになるのか。

証明書交付に関しては徐々に増えてきている状況であり、現在のところ全体の30%程度がコンビニエンスストア等の交付に代わってきている。また、今回の改正に伴い印鑑登録証明のほか住民票の写し、戸籍の謄抄本などコンビニエンスストア等で交付できるものについて

では、すべて電子証明書を搭載するスマートフォンで対応できるようになる。

一般会計補正予算第7号

問 除雪業務委託の効率化についてどのように考えているか。

答 市内全域の除雪体制に関しては、44の業者に除雪業務を受託していたが、作業員の高齢化やオペレーター不足などの課題があり、将来にわたって安定的な除雪体制を維持するために、包括的な業務委託の事例なども検証しながら、防災支援協会と協議を続けている。



市民建設委員会

22人の議員が市政を問う

12月定例会一般質問要旨

答弁者名は以下のとおり省略して記載しています。

答弁者役職	略称	答弁者役職	略称
市長	市長	環境部長	環境
教育長	教育長	福祉部長	福祉
政策企画部長	政策企画	産業振興部長	産業振興
総務部長	総務	都市建設部長	都市建設
財政部長	財政	真田地域自治センター長	真田センター
市民まちづくり推進部長	市民まち	上下水道局長	上下水道

掲載記事は、質問議員本人が作成しており、質問全体の一部を要約したものです。質問全体の内容については、会議録に掲載しています。会議録は、議会事務局、市内図書館、公民館および上田市議会ホームページからご覧いただけます。

なお、一般質問は上田ケーブルビジョンおよび丸チレビ放送のご協力により、生放送と録画放送を行っています。（チャンネルが一部変更になっています。詳細はp19）

インターネットの生中継、録画配信専用サイトはこちら。



みちぶしん 道普請事業

村越 深典 壮志会

問 市職員が指導しながら、地域住民が主体となり、道普請を行うことは有効と考えるが、見解はどうか。

答 （都市建設）地元主体で行う工事に対し、市職員が作業手順や機械類の作業方法など、技術的な指導を行うためには、車種に応じた運転免許の取得や技能講習等の受講が必要となる。これらの条件を備え、作業のできる職員はほとんど在籍していない状況である。また、

工事に起因して発生が想定される作業従事者や第三者の事故などの公衆災害は、対応に十分な検討が必要であると認識している。しかし、県内の他自治体においては、地域住民等が実施する道普請作業に対する補助金交付制度を設けている事例もあることから、このような制度についても今後調査研究していく。

【その他の質問項目】

- ・ 職員の資質向上を図るための資格取得
- ・ 地域役員の女性登用



次期総合計画策定

飯島 伴典 上志の風

問 次期第三次総合計画の策定プロセス等はどうか。

答 （政策企画）年明け以降、次期総合計画の策定に着手する。審議会ほか各種市民参加の在り方、機運の醸成など、前回のプロセスを検証し進める。具体的な方針はこれから検討していくが、審議会等に関して、幅広い年齢層になるよう、構成や選出方法、開催日時の工夫も必要と考える。また、多様な世代、思いを持つ方の考えや意見を聞く機会づくりや、

座談会、ウェブアンケートなど新たな手法を検討していく。

問 第三次総合計画の策定に対する市長の決意はどうか。

答 （市長）まちづくりを描く次期総合計画の策定には、幅広い市民の参画が必要である。特に上田市の将来の主役となる若い世代に関わってもらいたい。私一人でつくるわけではない。皆さんのビジョンも入れて協働しながら進めていく。

【その他の質問項目】

- ・ AYA 世代のがん患者支援



上田市のカスタマーハラスメント

堀内 仁志 上志の風

問 市職員に対する市民からの過度な要求・暴言・SNS投稿などのカスタマーハラスメントの被害状況および対策はどうか。

答 (総務) 職員だけでは対応が困難な相談事例が増加しており、上田市不当要求等対応委員会を組織し対応している。また、日頃から相手の話を親身に聴き、わかりやすい説明を心がけることも重要であると認識している。

問 カスタマーハラスメント対策として、名札を名字のみにすることへの市の見解はどうか。

答 (総務) フルネーム表記がカスタマーハラスメントや職員への誹謗中傷につながる事例をはじめ、インターネットやSNS等の普及により、個人情報を検索され、プライバシーが侵害されるおそれがあり、職員を守るための一つの方法として、名札の表記の見直しは必要と考えている。

【その他の質問項目】

・教育現場の課題



公共交通

松尾 卓 公明党

問 人口減少、少子高齢化や乗務員不足の状況から、現状のバス路線維持は困難である。利便性向上とともに、収益の確保や交通事業者の経営基盤強化が課題だが、見解はどうか。

答 (都市建設) 朝夕の利用集中や交通渋滞からダイヤどおりの運行が困難なことなど、課題が多い。チケットQRコード決済推進による利便性向上を図る一方、運賃低減の対象を市民やキャッシュレス決済利用者に限定する

ことや運賃値上げについても検討していく。

問 利便性向上と交通事業者の経営基盤強化のため、支線路線をデマンド等の代替輸送に転換し、地域間路線の増便や貸切りバス等へ乗務員を配備する再編案について見解はどうか。

答 (都市建設) 運転手確保を進めるとともに、他県の事例等を参考に利用状況に応じた再編、利便性向上やバス事業者の経営基盤強化を図る必要がある。公共交通は都市機能の維持等、生活の質を高める基盤的社会インフラとして大きな役割と価値があるものと捉えている。



高齢者介護

泉 弥生 日本共産党上田市議団

問 第8期上田市高齢者福祉総合計画における第1号被保険者の介護保険料基準月額が5,902円となっており、県内19市中3番目に高い金額である。積立額が20億円余の介護保険基金を活用し、第9期の介護保険料を引き下げる考えはあるか。

答 (福祉) 保険料の平準化は、介護保険基金を活用した緩和策の必要性も認識しており、介護保険運営協議会において、その活用につい

ても審議をお願いしている。

問 市は、介護従事者の人材育成について、どのように考えているか。

答 (福祉) 制度の持続性に関わる喫緊の課題と捉えている。昨年の介護職員の平均給与は、全産業平均より月額で6万円以上低く、賃金に課題がある。介護サービスの提供に携わる人材を安定的、継続的に確保するため、処遇改善などの対策を進めることが重要である。

【その他の質問項目】

・子どもの育つ環境



真田地域の情報伝達手段

古市 順子 日本共産党上田市議団

問 真田有線放送の撤去作業が行われているが、清算後の残高見込みはどうか。残高は真田地域の振興に資する財源として、真田の地域振興事業基金に算入すべきだが、見解はどうか。

答 (真田センター) 事業清算後の残高は、3億円程度を見込んでいます。真田地域振興の基金として積み立て活用していく。

問 高齢者にも使いやすい情報伝達手段の整備が望まれるが、見通しはどうか。

答 (真田センター) デジタル端末にアプリケーションを導入し、活用する環境整備に向けて検討している。タブレットやスマホ等を利用して、操作が不要で自動で音声再生され、また災害時には強制的に起動し、緊急放送が流れる情報伝達手段である。また、自治会長が自治会員のグループを設定し、お知らせする機能を持たせることができる。

【その他の質問項目】

- ・ 地域内分権
- ・ 地域振興事業基金
- ・ サテライト市長室
- ・ 戦争遺跡の保存と活用



自主財源を増やすべくチャレンジを

武田 紗知 上志の風

問 企業版ふるさと納税制度の目標達成に向けた来年度の具体的な取組はどうか。

答 (政策企画) ホームページを新たに見直した。これを有効に活用し、理事者をはじめ、職員一丸となったセールスを展開していく。また、仲介事業者の協力を得て、企業訪問時の効果的なセールスの仕方などについて職員向けの研修動画の準備も進めている。本制度は財源

確保やシティプロモーションの有効な手段であるため、これからは攻めに転じて取組を進めていく。

問 自主財源の確保には市長の積極的な姿勢が重要だと考えるが、市長の決意はどうか。

答 (市長) 企業誘致に向けた企業代表者向けのトップセールスに、より一層力を入れていきたいと考えている。自主財源の確保は地道な取組と攻めの取組とを併せ持ちながら積み重ねていくことが大切である。戦略的な手法等をさらに改めて私たちも構築しながら進めていきたいと考えている。



水道事業の広域化

井澤 毅 新生会

問 水道事業の広域化には必ずメリットとデメリットがある。明確な資料もないままに説明会やアンケートを実施して、既成事実が積み重なり着実に広域化へ進んでいるのではないかと懸念している。広域化になれば上田市の水ではなくなる。市議会において水道の議題はなくなり、議論はできなくなってしまう。水道事業の広域化は、合併と同じく大きなことであり、真剣に慎重に考えていかなければ

ならないことから、市が独自で財政シミュレーションなどを行った上で改めて市民説明会やアンケートを行うべきと考えるが、見解はどうか。

答 (上下水道) 上田市でも現在、独自に検証を行っている。来年度はその結果を公表し再度市民説明会やアンケートを行う必要があると考えている。しっかりと検討を重ね、親切、丁寧に分かりやすく、市民や議会に示し、意見を伺いながら将来の水道事業の在り方について方向性を見い出していきたい。



中心市街地のまちづくり ビジョン策定へ

齊藤 達也 新生会

問 財政が厳しい中でも、上田のビジョンを示していくことが重要である。松本市の三の丸エリアビジョン等を参考に、市民と協働で、かつ専門家の力も借りて上田市ならではの魅力あふれるまちのビジョンを策定すべきと考えるが、見解はどうか。

答 （都市建設）中心市街地においては、裏通りへの新たな出店、商店街へのマンション建設、

民間事業所建設も予定されており、長期的な視点でまちづくりを進めていく必要がある。居心地がよく歩きたくなるまちづくりなど、海野町や柳町といった商店街の活動が活発になっていることを好機として捉え、上田城、商店街、上田駅を拠点とした上田城下町のエリアビジョンの策定を検討している。ビジョンの策定に当たっては、市民と協働で、また、専門家からの支援を検討していく。

【その他の質問項目】

- ・ 財政状況の見直し
- ・ 有機物リサイクル施設整備
- ・ 公民連携と公共施設マネジメント推進



誰でも生き生き 健康都市まちづくり

齊藤 加代美 新生会

問 市は今より 10 分体を動かそう、ウォーキング 1,000 歩を推奨している。また、国土交通省は平均歩数が 1 日 1 歩増加すると、医療費 0.061 円抑制効果があるとしており、1 人当たり年間、約 2 万円の抑制効果が見込まれる。快適に歩けるまちづくりのためのハード施策とその効果はどうか。

答 （都市建設）新参町線無電柱化のほか、快適

な歩行者空間の整備が連続・連携して進むことにより、市街地ウォーキングや桜期の依田川ウォーキングなど、健康づくりのために一層活用されるほか、沿道の活性化や賑わいの創出、交通安全にも大きな効果がある。

問 地域コミュニティ活動の拠点として、公民館分館の活動をどう捉えているか。

答 （市民まち）社会教育の推進、コミュニティ活動の活性化にも寄与する重要なものであり、今後も必要な支援の充実を図る。

【その他の質問項目】

- ・ 健康づくり視点のコンパクトシティ推進



特別支援教育と 共生社会の実現

高田 忍 社志会

問 市内小中学校における特別支援教育の現状と課題はどうか。

答 （教育長）市内の児童生徒数は減少しているが、特別支援学級に在籍する児童生徒数は増加傾向である。市では、上田市教育支援プランに特別支援教育の充実を掲げ、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行っている。課題は、特別な配慮が必要な児童生徒

の増加や多様なニーズに対応する支援体制の構築、人材と予算の確保である。

問 長野県上田養護学校の役割は何か。また、老朽化が進む校舎の建て替えを県に働きかけることはできないか。

答 （教育長）上田市の特別支援教育を推進するにあたり、大変重要な役割を担っている。市民の声や要望を県東信教育事務所に伝える。

問 *副学籍制度に取り組む考えはあるか。

答 （教育長）インクルーシブ教育の取組の中の副学籍制度を来年 4 月からスタートさせ、子ども達の交流や共同学習の推進を行う。

※副学籍制度…特別支援学校に通う児童生徒が、居住地の小中学校にも籍を置く制度。地域とのつながりを大切にしながら、共生社会につながる行動力と豊かな人間性を育む。



性教育

中村 知義 上志の風

問 小学校、中学校において命の学級の実施状況はどうか。

答 (教育長) 小学校は20校で実施しており、ほとんどの学校で5、6年生を対象に実施しているが、2年生と4年生で実施している学校もそれぞれ1校ずつある。中学校では、今年度は全ての学校において実施している。

問 今後、小学校低学年及び高学年、中学校を対象に、成長に合わせた性の学習機会を増やし

ていく考えはあるか。

答 (教育長) 命の学級は、各中学校から継続の希望もあるため、次年度以降も引き続き助産師による性教育の取組が継続できるよう、関係部局と調整していく。性教育を取り巻く社会環境も変化している。総合的な判断の中で、今後必要とする学習機会を確保していく。

【その他の質問項目】

- ・スポーツ振興



脱炭素先行地域選定に伴う事業展開

久保田 由夫 日本共産党上田市議団

問 上田市が選定された理由は何か。

答 (環境) 赤字ローカル線の存続という全国的に大きな地域課題の解決に向けたモデルとなる提案として、別所線の経営改善に向け安価な再生可能エネルギーを供給するとともに、市民向けに別所線を応援するメニューを創設するなど、市民参加型の経営改善と脱炭素の相乗効果が期待できる点とされている。

問 別所線利用者のサービス向上策は何か。

答 (環境) 令和6年4月に地域エネルギー会社を設立予定であり、小売電気事業等の契約に対し、別所線の乗車時に活用できるポイントを付与するなど別所線応援メニューを導入し、市民の別所線への応援行動を喚起し、電動シェアサイクル、EVカーシェア、※パーク&ライドの拡充等展開していく。

【その他の質問項目】

- ・市の財政
- ・政策立案の手法
- ・デジタルディバイド解消事業



災害情報伝達手段

宮下 省二 壮志会

問 市は国の事業で整備を行うのか。

答 (総務) 今回、国による未整備地区として新聞報道されたが、国が示す災害情報伝達手段の早期構築に向け消防庁等と協議を行い、令和7年度までの整備に向けて調整している。

問 従来から取り組んでいる内容を最大限生かす中で、経費削減を図る必要があるかどうか。

答 (総務) 現在、消防庁の情報伝達手段構築支援事業による技術的指導を受けるための専門

技術員の派遣を要請し、取り組んでいる。

問 市は全国で最初にケーブルテレビが認可された地域特性を活用すべきと考えるがどうか。

答 (総務) 新たな災害時の情報伝達手段の構築については、ケーブルテレビの持つ情報を配信する活用性の高さと通信網を活用する整備方式は、費用対効果が最大限に発揮できるものと評価している。

問 市民への情報の多重化、多様化はどうか。

答 (市長) 市民ニーズや災害の種別に左右されない強靱化を目指し、官民連携の強化等により災害時情報伝達手段の多重化、多様化を進めたい。

※パーク&ライド…自宅から最寄り駅や停留所まで車を利用し、最寄り駅等に駐車後、公共交通機関を利用して目的地まで移動する方法



農業の現状と 今後の展望

矢島 昭徳 上志の風

問 農作物の鳥獣被害の現状と対策はどうか。

答 (産業振興) ニホンジカが市の東北部の千曲川右岸までに生息域を広げ、リンゴを中心とする果樹の花芽等への食害が増大しており、他にも水稻、野菜等に被害が広がっている。駆除対策は集落等捕獲隊が市内に2地区結成されており、農業生産者が捕獲従事者の補助者として活動している。防除対策では、農業

生産者自ら、フェンス、電気柵等で農地を守っている。

問 鳥獣被害対策の取組と補助制度の充実はどうか。

答 (産業振興) 野生鳥獣と集落を分ける緩衝帯の整備も地域ぐるみで取組んでいる。市独自で個人が農地を守るために購入した資材費について補助を実施している。今後も、被害状況を把握し、より効果的な支援について、更に研究していく。

【その他の質問項目】

- ・クマの被害と今後の対策
- ・農業における温暖化対策
- ・農業経営基盤強化促進のための地域計画



公の施設における 使用料等の考え方

石合 祐太 新生会

問 市民説明会やパブリックコメント、上田市行財政改革推進委員会で寄せられた意見は基本方針に反映されたか。

答 (総務) 冷暖房、附属器具使用料は原則減免しないとの方針は変わらないが、市長が特別な理由があると認める場合には、施設の利用実態等を踏まえて減免の判断を行うこととすることを追加した。また、新たに適用時期の

項目を設けて、減免の内容は策定の日から3年後をめどに適用することとした。

問 子育て支援や高齢者介護など市の施策と合致する活動には支援を検討するなど、市として必要な関わりを持つ考えはあるか。

答 (総務) 施設ごとの利用団体の実態を把握し、その活動が市の施策と合致し、施策推進に効果が期待される場合には、冷暖房使用料等も含めて減免することも検討していく。



自治会 DX による 負担軽減策

松山 賢太郎 (仁政会)

問 ICT 活用による自治会負担軽減を早期に試験導入できないか。

答 (市民まち) 真田地域で有線放送電話事業終了に伴う情報伝達手段の整備を来年度検討しており、自治会支援策としても各種通知、申請の他、定期送達書類のデジタル化に活用し自治会の負担軽減と各種経費削減を目指す。また、地域内の情報伝達機能もあり、地域内に音声や文字で情報配信できる機能を持たせる。

問 早期導入に向け UCV や「てまサポ」のような地元で実績のある団体等に導入研修や各種サポートを委託し、自治会 DX 支援を加速できないか。

答 (市民まち) 限られた組織のみで活動の継続は難しく多様な主体との連携は必然である。昨年度から活力あるまちづくり支援金を活用したスマートフォンの講習会を無償で開催するなど市民の主体的、自発的活動も始まっており、このような活動を支援し、同様の事例が増えることを期待し、啓発や庁内連携を行っていく。



令和6年度予算編成 基本方針と財政運営

飯島 裕貴 新生会

問 基金の活用をどう捉えているか。

答 (財政) 令和4年度末における定額運用基金を含む合計額は273億5,000万円余で前年度比較7億7,000万円余増加している。厳しい財政運営から令和6年度も基金の活用という項目を設け、各所管課に積極的な活用計画の推進、類似する基金の統合を求め、当初予算編成においてこれまで取崩しが行われ

なかった基金を含め有効に活用されるよう取組を進める。

問 事務事業見直しシートの効果はどうか。

答 (財政) 令和5年度当初予算では、件数にして70件、金額では1億4,000万円余であった。各担当課において新たな施策に取り組むために既存事業の見直しや経常経費削減のため、印刷部数の見直し、事務経費の削減など事業規模は様々だが予算編成における財源の確保や有効活用に必要不可欠な取組と考えている。

【その他の質問項目】

・健康増進の施策



教育予算

池田 総一郎 上志の風

問 OECD加盟国の中で、日本は教育予算が最下位に甘んじ続けてきたことにより、人材育成が十分にできていなかった。このことが、この30年間、我が国の経済成長を鈍らせた大きな要因の一つであると考えている。上田市は人材育成にかかる教育予算をしっかりと確保すべきと考えるが、市長の考えはどうか。

答 (市長) 来年度予算編成基本方針として、上田市は、「子育て、教育施設の充実、こども

まんなか社会の推進」を将来を見据えた取組の重点分野の一つに位置づけている。学校教育の予算を十分確保し、将来活躍できる人材の育成に取り組むことは、大変重要な視点である。私も、地域の宝である子どもたちが、この地域のみならず、国内、世界で活躍できるよう、人材育成をしていきたいという願いを持っている。財政状況も鑑みながら、義務教育期の教育活動が充実するよう、怠りなく努めていく。



重症心身障害児者や医療的 ケア児者、家族が安心して 生活できる地域共生社会の構築

池上 喜美子 公明党

問 土日、祝日の受入れ体制・短期入所の現状等、施設整備の考えと、人材確保・人材育成の取組はどうか。

答 (福祉) 現在、日曜日と祝日、短期入所に対応できる施設がないことが、上田市を含む上小圏域共通の喫緊の課題である。令和4年度から圏域で医療的ケア児者等総合支援事業

を開始し、人材育成研修などの委託事業により受入れの拡大、促進を最優先して進めた結果、昨年NPO法人により新施設が1か所開始し、本年、老朽化した施設の移転の方針も具体化した。また、専門性が必要で個別性も高いことから、看護職員等の人材確保は大変苦慮している。引き続き、関係機関と連携し本人や家族の負担軽減のために現状の打開に努める。

【その他の質問項目】

・子どものインフルエンザ予防接種助成制度



夜間中学などの 政策課題

半田 大介 公明党

問 県の夜間中学設置検討会議が行った県民ニーズ調査では、中学に通いたい方は上田市が最多だった。今後、県の設置意向調査に対して市が設置するか、設置が難しい場合、県による上田市での設置を要望する考えはあるか。

答 (市長) 市民ニーズの高さ、夜間中学には他市町村から広域的な学生の通学が想定されるため、立地から当市にあることが望ましい。

今後、県の検討会議を見守り、県への要望も時期を見て行っていく。

問 生ごみ処理機購入補助金は県内一の高い補助率ゆえに新年度予算が不明な段階で、今年度の購入補助を約束する市ホームページの表記は、市外販売業者の販売欲と消費者の消費欲をあおっていることに市の責任はないのか。

答 (環境) 市外販売業者の過度な宣伝活動につながる懸念と市民への影響などをふまえ、来年度は補助制度の検証と交付要綱の見直しを検討する。補助率など市民・地元業者に効果的な制度となるよう研究していく。



ワイン文化の振興と観光

原 栄一 壮志会

問 信州千曲川ワインバレー東地区は、平成 27 年に県内初の広域特区として認定を受け、創立されたが現状はどうか。

答 (産業振興) 現在、千曲市から佐久市までの 9 市町村で、千曲川ワインバレー特区連絡協議会を構成し、管内にはワイナリーが 26、ワイン用ブドウの生産者は 70 名以上集まっており、県内有数のワイン産地となっている。

問 市としては今後、関係市町村と連携しどのよ

うに振興していくのか。

答 (産業振興) ワインバレー特区連絡協議会が実施する技術研修などへの協力、知名度の向上を図る商業施設等でのイベントや販路拡大の機会の創出、観光誘客への取組、またホームページや SNS を活用した情報発信など、引き続き関係市町村と連携し、産地全体の活性化に向け積極的に取り組んでいく。

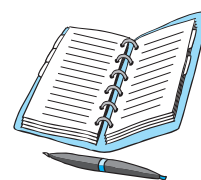
【その他の質問項目】

・新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ

本会議を傍聴されたみなさんの声

～こんなご感想をいただきました～

12 月定例会本会議の傍聴者数は延べ 24 人でした。
傍聴された皆さんから寄せられた、ご感想やご意見の一部を紹介します。



- 初めての傍聴でしたが、インターネットやケーブルテレビの中継では伝わらない緊張感や議員、職員の代表者の方々の表情（人柄）が分かって良かった。
- 今回初めて、丸一日傍聴してみました。大変興味深く聴きましたが、傍聴者が少ないのが気になりました。議会がある意味や取組について発信し、市政への関心を高めてほしいです。そして傍聴者が増えてほしい。

傍聴者の
声

常任委員会ごとにテーマを設け市民と語りあう、テーマ別車座集会を開催し、総勢 71 人の方にご参加いただきました。ありがとうございました。いただいたご意見、ご提案は、今後の委員会活動に活かしてまいります。

11
10
fri

【総務委員会】テーマ 高校生と語る上田市の未来



市内全7校の高校生に参加いただき、4グループに分かれて、上田市の資料を見ながら、高校生が考える「上田市の良い所・悪い所」、「住み続けなくなるには」など、魅力ある上田市にするための意見交換を行いました。

【参加者の意見】

- ・ 高校生の居場所となる場所が少ない。アリオ、イオン、パレオぐらい。勉強もこうした場所が自宅ですることが多い。
- ・ 中途半端な子育て支援策ではなく、徹底的に子育て支援・教育に力を注ぐことが大事。
- ・ 市内に高校が多い特性を踏まえ、高校で「衣食住」など地元の魅力を見つめ直す機会が欲しい。



【感想】

- ・ 同年代の多様な考えを聞き、良い刺激になった。地域のことにより一層注目していきたい。
- ・ 高校生が集まって議論するという機会は本当に貴重だと思う。もっと多くの人と上田市を理想の状態につくり上げたい。

11
8
wed

【産業環境委員会】テーマ 上田市の産業を元気にしよう



市内で特徴のある取組を行っている企業・経営者に自社の取組を発表していただき、その後、4グループに分かれ、発表に対する質疑や、上田市の産業が元気になるために必要なことについて意見交換しました。

【参加者の意見】

- ・ 上田市は製造業が主力のため、高騰するエネルギーコストを抑制することが必要。地域新電力の設立や蓄電池を含む関連する企業・研究施設の誘致をしようか。



【感想】

- ・ 企業の人材確保が課題となっているため、子育て環境の整備への集中投資やリモートワーク環境の整備を進め、移住定住につなげて欲しい。
- ・ とてもおもしろい取組だと思った。もっと参加していきたい。
- ・ やっぱり車座集会は良い。
- ・ 参加者の年齢範囲をさらに広げられたら良いと思う。

車座集会

開催しました

11月8日、9日、10日に各
ご参加いただいた皆様ありが

11

10

fri

【教育厚生委員会】テーマ 食と健康 ～食を通じた健康づくりに ついて語ろう～



テーマに沿って、ライフステージごと(子ども・成人・高齢者)の食育についてワールドカフェスタイルで意見交換を行いました。

【参加者の意見】

- ・料理体験や食事の買い出し、家族との食事など、子どもの頃から料理に触れることはこころの栄養も育むことにつながる。
- ・子育てしている方や若い世代は、働きながらバランスのいい食事をつくることや規則正しい時



間に食事を摂ることに關する悩みが多い。

- ・高齢者の健康づくりには食と併せ、休養や運動、社会参加による生きがいづくりも重要。

【感想】

- ・共通の話題で議員さんと話をする機会があることは良いことだと思う。
- ・思った以上に気楽な感じで意見交換ができて良かった。
- ・議員を身近に感じるこ

11

9

thu

【市民建設委員会】テーマ 移住定住 ～上田で人生を一緒に 楽しもう～



「移住定住」について、上田市出身の方、県内外から移住してこられた方と、「上田市に住んで良かったこと、困ったこと」、「移住定住に必要と思うこと」、「市に望むこと」などについて意見交換を行いました。

【参加者の意見】

- ・定住は結果的になるもので、今住んでいる人が、住みやすいまちにすることが大切。
- ・移住をする人とそれを受け入れる人々の協力が必要。



・移住に関する補助金があるが、制度の周知が必要。

- ・地域のコミュニケーションのノウハウを引き出すこと、自治会との関わりが大切。

【感想】

- ・普段自分が感じてい
- る、良いところ、課題を他の人も同じように感じていることが多く共感できた。
- ・次回も期待します。もっとたくさんやってほしい。

抱える課題に関して、他自治体の先進的な取組などを市政に反映させるため、行政視察について報告します。報告内容の詳細は、上田市議会ホームページをご確認ください。➡



総務委員会

1 福井県小浜市 「小浜市・若狭町日本遺産活用推進協議会」

小浜市では「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群」御食国若狭と鯖街道」が日本遺産第1号の認定を受けており、継続審査においてもこれまでの取組が評価され重点支援地域に認定された。

上田市でも現在認定を受けている日本遺産について、継続審査時に各審査項目について確実に評価が受けられるように取組を進める必要がある。

2 三重県桑名市 「指定管理者制度の見直し及び公民連携によるネーミングライツ」

桑名市では、指定管理制度で運営されていた施設を一旦直営に戻し、公民連携の手法をベースに運営方法の見直しを行った。また、施設情報のオープンデータ化や、民間提案を受け付ける常設窓口を設置し、公民連携の提案を随時募集するなどしている。

上田市でも合併により余剰・

重複した公共施設を抱えており、議会として厳しい指摘を行いながら、公民連携を進めていく必要がある。

3 福井県福井市 「財産有効活用民間提案制度」

福井市財産有効活用民間提案制度は、市が所有する遊休財産について、民間からコスト削減やサービス向上、地域活性化につながる提案を受け、活用を図る制度であり、財政負担軽減だけでなく、市民サービスの向上につながる有効な制度であった。

上田市にも100を超える指定管理施設や低・未利用財産があり、それらの活用策として参考となる制度であった。



産業環境委員会

1 奈良県大和郡山形市 「水道事業の広域化」

大和郡山形市では、県営水道と25水道事業体との事業統合において、当初示された条件での参加を見送り、調整や協議を重ねた結果、引継ぎ資金の配分ルールを設ける等の条件変更を認めさせた上で参加を決定した。

上田市でも、上田長野間で検討されている広域化について、検討の判断材料となる条件を早急に整理する必要がある。

2 京都府南山城村 「道の駅お茶の京都みなみやましろ村」

道の駅みなみやましろ村では、オープン以来売上げを伸ばし続けており、また、休憩場所としてだけでなく、お茶づくりを中心とした産業の創出、担い手の育成等、村づくりの拠点として機能していた。

上田市では、(仮称)道の駅まるこの整備が検討されているが、施設を建てて終わりではなく、地域経済を循環させ

る拠点とするため、信頼できる事業者の選定に向けて、積極的に取り組む必要がある。

3 やまこうファーム㈱ 「凍結凍覚醒法による国産コーヒー豆栽培」

凍結凍覚醒法は、日本の気候では生育が難しい熱帯植物の耐寒性を高め、収穫量を増やす技術である。国産コーヒーは、希少性及び需要が高だけでなく、観光面でも魅力のある農産物である。

上田市の課題である耕作放棄地対策として、稼げる農業を目指すには、希少性や話題性も重要な視点であり、凍結凍覚醒法による熱帯植物の栽培はその可能性がある。



常任委員会行政視察報告

常任委員会では、所管する事務事業が行っています。今年度実施した行政視察

教育厚生委員会

1 富山県砺波市 「となベジプロジェクト」

野菜が持つ血糖値の上昇抑制効果に着目し、野菜から先に食べる「ベジファースト」の啓発等の活動により、40代から50代のHbA1cの有所見者の割合が4年間で15%低下した。砺波市の取組は、実効性を伴う施策として上田市でも見習う点が多い。

2 岐阜県岐阜市 「岐阜市子ども・若者総合支援センター エールぎふ」

岐阜市では、「困ったらエールぎふへ」を合言葉に、0歳から20歳までの子どもや若者、その保護者の不安や悩みに対し、関係機関と協力し、ワンストップで、漏れなく切れ目ない支援に取り組んでいる。

上田市でも健康プラザうえだで妊娠から子育てまで切れ目ないサポートを行っているが、多様化・複雑化する問題に対し、ワンストップの相談窓口は大変参考となる事例である。

3 静岡県三島市 「スマートウエルネスみしま、第2次三島市健康づくり計画」

三島市では、多岐に渡る事業を展開し、スマートウエルネス構想による健康都市づくりに取り組んでいる。取組の一例として、三島市の健康づくりアプリは、ポイントと交換できる景品を数多く揃えており、インセンティブを付けることで無関心層を取り込むことにつながるものであると考えられる。本取組は市のチャレンジポイント制度においても無関心層の行動変容などにつながる有効策として、提案していきたい。



市民建設委員会

1 香川県高松市 「持続可能な公共交通ネットワーク形成に向けたまちづくりの取組」

高松市では、公共交通利用促進条例を制定し、市・公共交通事業者、市民及び事業者が協働し、「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現に向けて、[※]パーソントリップ調査の導入等に取り組んでいた。条例制定は、関係者の責務を明確にし、方向性が決まることで具体的な施策に結び付けることができるため、上田市でも検討すべきである。

2 香川県観音寺市 「移住定住促進事業の取組」

観音寺市では、移住定住促進のため、お試し移住体験制度等の施策を行うとともに、子育て世代を対象としたパンフレットを作成し、20代・30代の移住者を多く獲得していた。

上田市でも、移住定住施策について分かりやすく親しみのもてるパンフレットを作成し、災害の少なさや自然環境の豊かさを再度重点的にPRする必要がある。

3 香川県宇多津町「空き家サポーターネットワーク・移住定住促進事業の取組」

宇多津町と一般社団法人空き家コミュニティ、司法書士会、宅地建物取引業協会がそれぞれに協定を結び、「放置空き家ゼロ！」を目指して、空き家の無料相談会の開催や、空き家のマッチングシステムの利用等の取組を行っていた。上田市においても空き家対策と移住定住促進の連携を強化するとともに、移住者を選ばれるまちづくりを行う必要がある。



皆さんからの請願・陳情 4 件を審査

請 願

※請願第 2 号は令和 5 年 9 月定例会に提出された請願の継続審査です。

請願番号	件 名	提 出 者	委員会での審査結果 (付託委員会)
請願第 2 号	「再審法（刑事訴訟法の再審規定）」の 速やかな改正に関する請願	滝澤 修一氏 (紹介議員：土屋 勝浩議員)	不採択 (総務委員会)

本会議における討論 請願第 2 号

反対討論 (半田議員)	本請願で言及している、刑事訴訟法の再審規定について、課題があることは理解しており、冤罪は絶対あってはならないとの思いは請願者と同じである。 しかし、現在も継続されている法律専門家の協議が、何度重ねられても結論に至らない司法の重要課題に、マスコミの影響から同情することや、私達が得られる浅い見識から判断することは難しい。特に本請願の再審開始決定に対する検察官の不服申立てを禁止することは、専門家の中にも様々な意見がある。 このような状況において、地方議会が本請願に賛成することは無責任であると考ええる。
賛成討論 (石合議員)	布川事件などを教訓に、証拠開示を裁判官の裁量に任せるのではなく、政府には再審請求審における証拠開示を速やかに行うことが求められる。 また、無実の罪を晴らす最後のチャンスである、やり直し裁判を受ける権利を奪う検察の不服申立ては禁止されるべきという請願趣旨はもっともである。 国政・司法の課題であるから、地方議会が意見を述べることはなじまないなどの主張もあるが、一人一人の裁判に関わる問題として、地方から声を上げていくことが制度改善の機運を高めることにつながると考える。したがって、請願の願意は妥当である。

本会議審査結果

○：賛成 ×：反対 欠：欠席 議：議長（議長は表決に加わりません）

請願番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
第 2 号	石井 史郎	泉 弥生	村越 深典	中村 知義	武田 紗知	飯島 裕貴	松山 賢太郎	古市 順子	高田 忍	原 栄一	松尾 卓	金沢 広美	矢島 昭徳	堀内 仁志	石合 祐太	齊藤 達也	齊藤 加代美	佐藤 論征	西沢 逸郎	久保田 由天	宮下 省二	池上 喜美子	半田 大介	金井 清一	飯島 伴典	池田 総一郎	井澤 毅	土屋 勝浩	尾島 勝	欠員
第 2 号	欠	○	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	議	×	○	×	×	×	欠	×	×	○	○	○	／

※議員氏名の上の数字は議席番号です。

陳 情

陳情番号	件 名	提 出 者	審査結果 (付託委員会)
陳情第 9 号	上田市西部地区の豚舎による悪臭 解消を求める陳情	上田市西部地区環境を考える会 会長 竹内 信之 氏	不採択 (産業環境委員会)
陳情第 10 号	上田市使用料等算定に係る利用料・ 使用料の負担を従来どおりにする 事を求める陳情	「上田市使用料等算定に係る受 益者負担のあり方に関する基本 方針（案）を考える」連絡会議 力石 俊次 氏	不採択 (総務委員会)
陳情第 12 号	政党機関紙の庁舎内勧誘行為の自 粛を求める陳情	政党機関紙の庁舎内勧誘行為の 自粛を求める長野県民の会 代表 衣川 弘明 氏	不採択 (総務委員会)

うえだ市議会だより 読者アンケート

読者アンケートの提出方法は裏表紙をご確認ください。

問1 あなたの年代を教えてください。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| ☐ 10代以下 | ☐ 20代 |
| ☐ 30代 | ☐ 40代 |
| ☐ 50代 | ☐ 60代 |
| ☐ 70代 | ☐ 80代 |
| ☐ 90代以上 | ☐ 未回答 |

問2 うえだ市議会だよりは、年4回発行されていますがどの程度お読みですか。

- ☐ 全部読む
- ☐ 必要なところだけ読む
- ☐ ほとんど読まない

問3 うえだ市議会だよりのどのような記事に関心がありますか。(複数回答可)

- ☐ 表紙
- ☐ 定例会の概要
- ☐ 常任委員会の審査概要
- ☐ 請願・陳情の審査
- ☐ 一般質問
- ☐ 視察報告、政務活動費報告
- ☐ 裏表紙(市議会レポート、手話を学ぼう、編集後記)

問4 問2でほとんど読まないと答えた方におたずねします。その理由はなんですか。(複数回答可)

- ☐ 読みたい内容がない
- ☐ 議会に関心がない
- ☐ その他()

問5 うえだ市議会だよりのボリューム(ページ数)はいかがですか。

- ☐ 多い
- ☐ ちょうどいい
- ☐ 少ない

問6 うえだ市議会だよりの色はいかがですか。(現状：表裏表紙4色カラー、中2色)

- ☐ 現状のままでよい(費用：中)
- ☐ 全ページ4色カラー(費用：大)
- ☐ 全ページ2色(費用：小)

問7 うえだ市議会だよりの紙面構成や内容の印象はいかがですか。

- ☐ 普通である
- ☐ 読みやすい(分かりやすい)
- ☐ 読みにくい(分かりにくい)

問8 現在うえだ市議会だよりは定期送達により自治会の御協力をいただき各戸配布していますが配布方法についてお伺いします。

- ☐ 現状のままでよい(各戸配布)
- ☐ 各戸配布を止め、回覧に変更する
- ☐ その他()

問9 今後うえだ市議会だよりで取り上げてほしい内容を教えてください。【自由記述】

上田ケーブルビジョンにご加入の皆さんへチャンネル変更のお知らせ

市議会本会議の生中継・録画放送は、地上放送の12チャンネルから11チャンネルに移行しました。テレビの機種によっては再スキンの作業が必要となります。視聴方法などについては、(株)上田ケーブルビジョン(☎0120・160・074)まで。

※丸子テレビ放送では、従来どおりのチャンネル(市議会本会議の生中継は地上放送の11チャンネル、録画放送は12チャンネル)でご視聴いただけます。



うえだ市議会だより

読者アンケート

にご協力をお願いします。

広報広聴委員会では、手に取り読んでいただける議会だより作成のため、委員で力を合わせ、紙面構成を話し合い、編集・校正を行っております。

今回、今後の紙面づくりの参考とさせていただきたいと考え、読者アンケートを実施します。

読者の皆様の貴重なご意見をぜひお聞かせください。

【提出方法】次のいずれかの方法により提出をお願いします。

①②③④の方法で提出される場合には、P 19 に各質問項目が記載されておりますので切り取ってご利用ください。

①郵 送（宛先：〒386-8601 上田市大手 1-11-16 議会事務局まで）

※郵送に係る費用は、提出者でご負担をお願いします。

②FAX 0268-23-5136

③メール (gikai@city.ueda.nagano.jp)

④持 参（上田市役所本庁舎 5 階 議会事務局まで）

⑤オンライン：右にある二次元コードにアクセスし専用フォームから回答

提出期限：令和6年3月31日まで



〔アンケートの回答はこちら〕

手話を学ぼう

市議会だよりでは、「いま覚えてほしい手話」をお伝えしています。

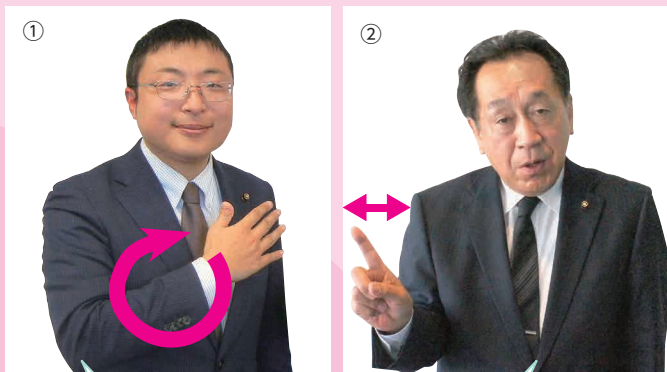
今回のテーマは

「体調はどうですか？」

“長野県ホームページ”
「手話辞典」



「体調はどうですか？」



①手を広げ、手のひらを胸の前で1回転させる。
②人差し指を立て、左右に小さく振る

編集後記

市議会だよりをお読みいただき、ありがとうございます。今年も委員一丸となり議会の情報発信に努め、委員が自主制作編集を行うWeb議会報告会を昨年に続き配信致しました！
また、4年ぶりとなる「テーマ別車座集」を開催。専門職含め、高校生、20代からご年配の方までの幅広い層の方々との活発な意見交換がありました。新人議員として初の車座集に新鮮な気持ちで取り組むなかで、参加者の皆様から刺激をいただきました。
昨年は、コロナが5類へ移行され、多くのことが再開されました。「多くの市民の声を聴く」をもとに議会を身近に感じていただくため、引き続き委員一同取り組んで参ります。

広報広聴委員
飯島 裕貴
泉 弥生
村越 深典